

氏 名	莎 如 拉
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4489 号
学位授与の日付	平成24年3月23日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Altered arterial stiffness in male to female transsexuals undergoing hormonal treatment
(性同一性障害male to female患者におけるホルモン療法による血管硬化度の変化)

論文審査委員 教授 伊藤 浩 教授 土井原 博義 准教授 難波 祐三郎

学位論文内容の要旨

性同一性障害(Gender Identity Disorder)とは生物学的性と性の自己意識が一致しない状態である。生物学的性に持続的な違和感を持ち、自己意識に一致する性を求める。性同一性障害(GID)では身体の特徴を求める性に近づくホルモン療法が行われる。心は女性、身体は男性である症例では、エストロゲンのみ、または、エストロゲンとプロゲステロンなどが種々の経路で投与される。本研究の目的は、ホルモン治療を受けている症例の血管障害を評価することである。

156名のMTF症例を対象とした。そのうち、ホルモン治療を受けてない27名、エストロゲンのみ、またはエストロゲンとプロゲステロン併用症例129名であった。非経口エストロゲン治療群の年齢はホルモン未治療群より有意に高かった。マルチトノメトリセンサーの付いた容積脈波計を用いて動脈硬化度を評価した。

ヘマトクリット、尿酸、APTTはホルモン治療群ではホルモン未治療群より有意に低値であった。HDLコレステロールは経口エストロゲン群ではホルモン未治療群、非経口エストロゲンのみ、およびエストロゲンとプロゲステロン併用群に比較して有意に高値であった。収縮期血圧はエストロゲンのみ群ではホルモン未治療群より有意に低値であった。血管障害の各種の指標を見るとbaPWV値はエストロゲン治療群ではホルモン未治療群、エストロゲンとプロゲステロン併用群に比べて有意に低値であった。cAI値は経口エストロゲン群では非経口エストロゲン群、または経口エストロゲンとプロゲステロン併用群に比べて有意に低値であった。

エストロゲン治療は、脂質代謝、血管機能に有益な効果がある。しかし、プロゲステロン併用によりエストロゲンの血管保護作用を相殺する可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

性同一性障害に苦しむ患者に対してホルモン療法が施行されるが、それが動脈に及ぼす影響を検討したのが本研究である。Male to female (MTF)症例に対してエストロゲンを投与すると、対照群に比べて尿酸の低下、LDL-Cの低下とHDL-Cの増加を認め、血管ステイフネスの指標であるbrachial-ankle pulse wave velocity (baPWV)は有意に低値となり、エストロゲンの血管保護効果が示唆された。それに対し、プロゲステロンを併用した群はこのようなエストロゲンの血管保護効果が消失した。MTF症例に対し長期にわたって施行されるホルモン療法の動脈に対する影響を検討した価値のある研究であり、プロゲステロンの併用に対して血管保護の立場から問題点を指摘した意義は大きいと認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。